

令和5年度青森県協同農業普及事業外部評価委員会における評価結果及び改善策

東青地域県民局地域農林水産部

課題名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
「青天の霹靂」の安定生産と食味のレベルアップ (R4～5)	A：6名	<ul style="list-style-type: none"> 青天の霹靂の品質向上に向けて、底上げを図るべく適切に取り組まれていると評価できる。(吉仲委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も関係機関・団体と連携しながら、生産者個々の生育状況を把握したきめ細かな生産指導を継続する。
		<ul style="list-style-type: none"> 今年は特異的な高温であり、県内でも1等米比率の低下が散見される中、定期的な研修会の開催等により、部会員への技術指導が積極的になされている。今後も生産性向上に向けた取組を加速させていただきたい。(小田桐委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も関係機関・団体と連携しながら、「青天ナビ」を活用し、生産者個々の生育状況を把握したきめ細かな生産指導を実施して、更なる品質向上を図る。
		<ul style="list-style-type: none"> 拠点ほの増設、気候が高温で推移したことから生産者への指導の徹底など、PTによるきめ細かな指導により、1等米比率が他地域より高い結果になるなど、成果が出ているものと思う。今後も気候の不安定化の常態化など、これまでと違う対応が迫られることが想定されるので、PT構成メンバーの最適な構成、生産者個々の環境の違いを踏まえた、より細かな指導等に取り組んでいただくことを期待する。 また、青天の霹靂にはその特性があると思うので、開発の背景、取組の経緯、生産者の思いなど、地元消費者にできる限り周知・発信していただき、地元のお米として愛着が更に高まるよう、引き続き取り組んでいただくことを期待する。(森委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き関係機関・団体と連携しながら、今年度得られた高温年での貴重なデータを含め、これまでに得られたデータを活用し、更なる品質・収量の安定化を図る。 県産米のPRについては、ブランド米推進の観点から、今年度全国デビューした「はれわたり」の生産振興と併せて、今後も機会を捉え、品種特性や生産の情報を発信していく。
<ul style="list-style-type: none"> 玄米タンパク質含有量の変更は年次により致し方ないことを理解はできたが、他県との競争がある観点からは、早期に以前の高いレベルの数値のような成果が表れることを期待したい。(蒔苗委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き「青天ナビ」を活用した現地検討会や個別指導等により、品質・収量の安定化を図る。 		

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

令和5年度青森県協同農業普及事業外部評価委員会における評価結果及び改善策

中南地域県民局地域農林水産部

課題名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
中南型りんご高密度植わい化栽培の導入推進 (R 5～7)	A：5名 B：1名	<ul style="list-style-type: none"> 既に導入している生産者も多数いることから、それら生産者の栽培様式や園設置に係る支援・施工業者からの情報も踏まえていただき、より良い青森県版の導入マニュアルの作成を進めていただきたい。 (吉仲委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関を構成員とする中南地域高密度植わい化栽培推進研究会を中心に、積極的に情報収集し、新規取組者でも円滑に導入できるよう分かりやすいマニュアルづくりに努める。
		<ul style="list-style-type: none"> 本会でも高密度植わい化栽培の普及への取組を進めており、今後も県と情報を共有しながら進めたい。また、取り組むに当たっては、苗木の確保が大きな課題となっており、本会でも苗木生産体制の構築に向けてJ Aと連携しながら進めることとしている。 (小田桐委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 中南地域高密度植わい化栽培推進研究会には、貴会にも参加していただいていることから、今後も、連携しながら早期に技術普及できるよう取り組んでいく。
		<ul style="list-style-type: none"> 新たな技術の導入ということで、課題の多さの割には、計画期間が短いように感じる。計画期間後も、技術の普及、生産の安定に向け、様々な課題があると思うが、腰を据えた取組を期待する。(森委員) 	<ul style="list-style-type: none"> りんご高密度植わい化栽培に取り組む生産者に対して、事例集やマニュアル等による情報提供を行うとともに、継続的に指導、助言を行っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> りんご産業の高齢化等の課題が多い中、モデル園地での指導やマニュアル作成まで続く本事業は全県に影響するものである。大きな期待を持ち注目していきたい。(蒔苗委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業により安定生産技術が示されることで、本県のりんごの主産地である中南地域において導入が進むものと見込んでおり、本県のりんご生産量の維持・確保に貢献できるよう取り組んでいく。
		<ul style="list-style-type: none"> 写真の資料添付は、分かりやすく参考になった。 (蒔苗委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も活動内容を十分に理解いただけるよう、資料作成や説明方法等について工夫し、分かりやすい説明に努める。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

令和5年度青森県協同農業普及事業外部評価委員会における評価結果及び改善策

三八地域県民局地域農林水産部

課題名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
にんにく栽培における労働力不足への対応と種苗増殖技術の徹底 (R 5～6)	A：5名 B：1名	<ul style="list-style-type: none"> 「省力化技術等・・・」の目標（3人）と実績（4人）について、収穫機導入のことを指していると思われるが、普及指導結果による実績を示すものなのか、説明資料から分からなかった。（吉仲委員） 	<ul style="list-style-type: none"> 「省力化技術等」は、栽培体系に組み入れることで省力化につながる機械や技術等を指している。今年度の実績に記載した4人は、スリットマルチを導入した生産者で、萌芽後の芽出し作業の省力化と、収穫時のマルチ剥ぎ取りの労力を軽減できる資材であり、普及指導により導入した3人と、自主的に導入した1人の計4人であり、説明資料の（5）活動内容欄に追記する。
		<ul style="list-style-type: none"> 種苗増殖専用ほ場の設置による優良種苗の導入は必要な技術であるため、指導対象者の意識が高まっているのは非常に有意である。単純な意識啓発にとどまらず、仮に生産者の行動が伴っていない場合には、その阻害要因を探り、代替案や及第案を示すような工夫が求められると思う。（吉仲委員） 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の結果から、専用ほ場を設置できていない生産者は、ほ場の面積に余裕がない、土壌病害虫の発生により設置できない等の事情がある。 専用ほ場の設置に向けて、個別の事情を把握しながら指導を継続する。
		<ul style="list-style-type: none"> 収穫機、シルバーマルチ、アシストスーツの使用効果に対し、経済性・使用方法等について課題があるようだが、課題の克服に向け、関係者の創意工夫に期待する。（森委員） 	<ul style="list-style-type: none"> 生産者が、個々の課題を克服するための必要性を判断できるよう費用対効果と併せ、既導入者の感想も含めて周知していく。
		<ul style="list-style-type: none"> にんにくの種苗増殖を官民一体で進めてほしい。（甲田委員） 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き関係機関と連携して、優良種苗の安定供給に向けて取り組んでいく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、面積を維持するためには、省力できる機械導入が不可欠となっており、若手農業者を中心に情報提供を積極的に実施していることは評価できる。また、優良種苗確保は、生産性向上や産地維持に向けた大きな課題となっており、引き続き連携しながら取り組んでいただきたい。(小田桐委員) ・ 土づくりも含め、本県のにんにくブランドの価値・重要性について、引き続き農家の方の意識啓発に取り組んでいただきたい。 今回の取組の成果が、他管内のにんにく栽培にも広く浸透し、青森県のにんにくブランドの維持・発展に寄与することを期待する。(森委員) ・ 課題抽出段階から、また、それ以降も生産者へのアンケートが有効に利活用されており、今後も指導検証の段階まで生産者の声を確実に聞き、その結果が得られることに期待したい。(蒔苗委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産性向上と産地の維持・強化には、優良種苗の継続的な導入が不可欠であり、引き続きJA等の関係機関と連携しながら取り組んでいく。 ・ 県内の他産地に先き駆けてにんにく栽培に取り組んできた生産者の意識・意欲を維持・発展できるよう、土づくりや栽培技術について再確認するとともに、産地のPRにも尽力していく。 ・ アンケート調査の結果から読み取った生産者の実状を受け止めた上で、生産者が課題の改善に取り入れやすい技術等を講習会や個別巡回で指導していく。
--	--	--	--

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

令和5年度青森県協同農業普及事業外部評価委員会における評価結果及び改善策

西北地域県民局地域農林水産部

課題名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
スマート農業を活用した大規模稲作省力低コスト技術の普及 (R3～5)	A：6名	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な指導活動内容と「スマート農業導入経営体」が導入している技術内容には相違があるように思われた。実演会を生産者がどのように受け止め、行動に移したのか、あるいは移さなかったのか、検証が必要になると思われた。(吉仲委員) 	<ul style="list-style-type: none"> これまで、生産者及び関係者を対象とする主要作業のスマート農機実演会の開催や、SNS等を活用した動画配信、「西北型水田農業スマート農業導入マニュアル」の作成・配布等に継続して取り組んできた結果、ドローンや直進田植機などのスマート農機の導入が着実に進んでいる実態につながったものと受け止めている。 今後は、導入経営体への利用状況調査等を行いながら導入効果を検証し、より有効的な啓発活動を実施していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 労働力削減に向けたスマート農機の導入は理想的であるが、具体的な費用対効果を検証する必要があるのではないか。(小田桐委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 費用対効果については、策定したスマート農業導入マニュアルで考え方を示しており、今後は、実際の導入経営体の機械導入後の利用状況や収量・品質の向上、収益性アップ等のデータ収集に努め、効果を検証していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 生産者の高齢化等による担い手の減少、気候変動などから、将来的に米不足にならないか心配される。スマート農業の利点を生産者に分かりやすく周知していただき、その普及が進むことを期待する。(森委員) 	<ul style="list-style-type: none"> スマート農業導入マニュアルの拡充とフル活用等により、引き続き生産者の理解を深めるとともに、導入効果を高められるような情報を分かりやすく発信していく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業が安定して継続されるよう、他品種との複合経営など、生産者の農業経営の安定に資する方策なども併せて御指導いただくことを期待する。(森委員) ・通信障害や収益性など、今後の問題点は解決しにくいことが多いかも知れない。現在連携している関係機関には限定せず、更に多様な異業種連携も検討いただき、本県の大規模稲作農業が大きな成功となることを願いたい。(蒔苗委員) ・2点の参考資料により大変理解が進みやすくなり、また、興味深い内容であった。(蒔苗委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業の導入効果が発揮されるよう、導入機械の利用拡大や収益性向上を図る生産指導に努めるとともに経営改善指導を実施していく。 ・管内のスマート農業は、農業者や関係団体、機械メーカー等で構成する西北型水田農業推進協議会が核となって推進しているが、今後は、新たに生じた課題に応じて必要な異業種との連携も模索しながら進めていく。 ・今後も活動内容がよく分かるような情報発信に努める。
--	--	--	---

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

令和5年度青森県協同農業普及事業外部評価委員会における評価結果及び改善策

上北地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
次代に引き継ぐ上北集落 営農活性化 (R 5～6)	A：6名	<ul style="list-style-type: none"> ・管内の指導対象組織数に対して、協議会への参加者が少ない印象を受ける。そのため、モデル実証数やオペレーター育成数の数値目標の根拠が不明瞭ではないかと思われた。(吉仲委員) ・集落営農組織の弱体化は、地域農業の衰退につながることから、組織間の連携強化や将来を担うリーダー育成などの取組を継続することで、地域農業の活性化につながることを期待する。(小田桐委員) ・生産者の高齢化や担い手不足により、地域農業の持続性が心配されるが、今回の取組が集落の活性化につながることを期待する。 今回の取組は活性化のきっかけになると思うが、計画期間終了後も引き続き支援いただき、道筋が付くようフォローをお願いする。(森委員) ・視点が違うかもしれないが、営農組織が34とのことなので、それぞれの集落にそれぞれの文化、特色があるものと思う。 祭り、伝統野菜、古くからの生活様式など、雪国の農村文化が存在するものと思う。これらを活用し、農業体験など県内外、あるいは国外からの交流人口増加にチャレンジしてはどうか。 地域の活性化に、いろいろな切り口でチャレンジすることを期待する。(森委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は再度協議会に参加していない管内集落営農組織に、協議会への加入を働きかけていく。 ・引き続き組織間の連携強化や将来を担うリーダー育成などの取組を進め、地域農業の活性化に向け取り組んでいく。 ・本計画は令和6年度までとなっているが、取組の進捗状況を踏まえて、重点計画又は一般計画において支援を継続していく。 ・集落営農組織の話合いに参加したり、地域振興に詳しいファシリテーターを派遣することで組織の取組方向を確認し、国の集落営農活性化プロジェクト促進事業や、県の地域貢献型地域経営拠点づくり事業等の補助事業の活用を促しながら、地域の活性化に向けて取り組んでいく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・項目の「協議会の設置」については、「設置」したかどうかではなく、参加組織数など数値にしてはどうか。(蒔苗委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・普及指導計画の目標を参加組織数に修正する。
--	--	--	--

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

令和5年度青森県協同農業普及事業外部評価委員会における評価結果及び改善策

下北地域県民局地域農林水産部

課題名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
下北を支える新規就農者の経営安定化 (R3～5)	A：5名 B：1名	<ul style="list-style-type: none"> ・青年農業士にメンター役を担ってもらい、経営確立に向けた支援を図ることは重要であるため、より拡充する方向で、現状の取組成果を評価するべきではないかと思われた。(吉仲委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農メンター（青年農業士）が所属している「むつ下北地区指導農業士会」と連携し、新規就農者への支援をより拡充する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者に対するアドバイザー制度は非常に良い取組であると感じており、定期的な訪問や相談で地域への定着に貢献していると感じた。今後もこのような取組を他地域へも波及させ、県全体でも新規就農者の支援・確保に取り組んでいただきたい。(小田桐委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、新規就農アドバイザー（農業経営士）が属する「むつ下北地区指導農業士会」と連携を図りながら、新規就農者の確保・育成に取り組む。また、この取組を他の地区の指導農業士会とも情報共有していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者は就農環境、家族構成など生活基盤もそれぞれ違いがあると思うので、新規就農サポートチームは個々のケースに応じた、きめ細かい「伴走型支援」をお願いする。また、令和5年度で計画期間は終了するが、その後も就農者に寄り添った支援をいただき、一人でも多くの自立した生産者が育成されることを期待する。(森委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者に対する伴走型支援については、令和6年度以降においても普及指導活動計画に位置付け、新規就農者個々に寄り添ったきめ細かなサポート活動を継続して展開する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「新規就農メンター」の青年農業士1名への相談実績はゼロなのは残念であり、個別が活用しにくいこともあるので、全体に呼び掛けたグループトーク等を冬期間に持つなど工夫してはどうか。(蒔苗委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農メンターが所属する「むつ下北地区指導農業士会」と連携し、新規就農者を参集してのグループトークや研修等の実施を通して、新規就農者の資質向上を図る。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要